桜が岡

瓊浦高等学校
学校通信
第　70　号

平成30年6月29日発行
電話　095-826-1261
FAX　095-820-5245

瓊浦の窓

「　瓊浦女学校の誕生　」

理事長　　栗山　幸生

この６月２５日は本校の創立記念日ですが、高等女学校時代は生徒全員が講堂に集合して校長先生の式辞のあと、昭憲皇太后と貞明皇后の御歌を斉唱していたそうです。私の知るかぎり昭和４０年代以降この日に特段の行事が行われた記憶はありません。近年６月下旬に創立記念週間が設けられ、全員で本校の歴史や諸先生方のご苦労の一端に触れることができるのは大変意義深いことだと思います。

本学園の創立者中村安太郎先生は、慶応元年(1865)江戸(東京)にお生まれになりましたが、お父様が急死されたため本籍地(山梨県甲府)に戻られて幼少年期を過ごされています。(先生は中村家の長男、当時の法律は家系中心で長男が家督を継ぐことが義務づけられていた)

今年は先生の８０回忌(昭和13年8月没)に当たりますので、感謝の意を込めて本校の前身瓊浦女学校の誕生を振り返ってみます。

先生は至誠のお人柄で、万事に我慢強く努力家でもあり、山梨師範学校を経て東京帝国大学をご卒業になり、教育者の道を辿られています。地元山梨県の中学校(旧制)教諭を振り出しに全国各地の中学校教諭・校長を歴任され、長崎とのご縁は大正３年から約６年間(1914～1919)長崎県立長崎中学校に校長としてお勤めになったのが始まりのようです。先生はかなり早い時期から、官立中学校では手の届かない教育実践(人格の陶冶)の私立学校設立のお考えをお持ちになっていたようで、その場所になぜ長崎を選ばれたかは不明です。既に長崎中学校長時代長崎の経済人や新聞記者の方々に学校創設の相談や資金調達の依頼等をされていたようです。

先生は長崎中学校から高知県の中学校に転勤され一時長崎を離れられますが、その間の開校準備は奥様(キク夫人)が積極的に進められていたようです。(現校地の伊良林はご夫人が近隣の地主さんを説得して入手)また、開校時の教員採用にも奥様の役割は大きかったようで、母校の東京女子師範学校の同窓生を中心に人選を重ねられたそうです。

先生は、大正１４年４月開校を決断し前年６月に長崎に戻られていますが、その胸中は中学校(男子校)の創設であったようです。時代が大正デモクラシー期に入ると婦人の社会進出が顕著になり、国家繁栄には女子の中等教育が必須との風潮も生じ、県内にも公私立の女学校が数校開校されました。加えて開校手続きや(女学校が設立許可が得やすかった)、先生ご自身が母子家庭で育たれたこともあって女子教育に理解と共感を示され、他校に優る女学校づくりを決意されました。(開校後、婦人の品性の涵養にと厳しい躾教育が行われたそうです)校名も長崎の古地名で女学校にふさわしい「瓊浦」が選ばれ、桜馬場に新築中の校舎も完成し、大正１４年(1925)４月６日、２０７名の新入生を迎え瓊浦女学校の第１回入学式が行われ、ここに瓊浦の第１歩が始まりました。

瓊浦女学校は昭和３年に瓊浦高等女学校と改称し、戦後の学制改革により昭和２４年から男女共学の瓊浦高等学校となっています。「瓊浦」はこれまで９３年の星霜を超してきました。７年後には１００年に到達して２世紀目に進まなければなりません。私たちは、一人ひとりが誠実・和・勤勉の校訓を体得し、オール瓊浦で頂(てっぺん)を目指し、学祖中村安太郎先生のご恩に報いたいと思います。

創立記念集会

６月２５日は本校の創立記念日です。それに先立ち１８日（月）には創立記念集会がおこなわれました。集会では瓊浦高校創立時からの歴史を写真でたどるＤＶＤを鑑賞し、生徒たちは桜馬場にあった女学校時代のミシンの授業風景やグラウンドが現在の管理棟辺りにあった時代、総合体育館など見慣れた校舎が新築されたときの様子などを興味深く見ていました。その後栗山理事長先生より、創立者の中村安太郎先生の理念や７０周年の頃の思い出などについてお話があり、最後に吹奏楽部の伴奏による校歌を斉唱し、９３回目の創立記念を祝いました。

第１０回～語り合おう in Nagasaki ～高校生特別審査員

６月１６日（土）に長崎原爆死没者追悼平和記念館で行われた大会の高校生特別審査員に、本校から定方悠登君・真辺麟太朗君・村川航海君・山﨑俊輔君・小原一愛さん・戸浦眞奈さん・中尾未来さん（以上龍普３Ａ）の７名が選ばれ、参加しました。この企画は、長崎大学や長崎外国語大学で学んでいる他国出身の学生が、長崎での生活や学びについて日本語で発表するのを聞き、それを審査するというものです。参加した生徒達は、「自分の国から外の世界に出ることで、客観的に自分の国を見直すことができるということを学べた（定方君）」「（日本人は）外国人を外国人として見ているから、話していても壁があるように感じるという話が印象的だった。外国人と交流できる機会が増えたらいいなと思った（戸浦さん）」「（発表者は）日本という国を日本人とは違う視点で見ていて、すごく新鮮でした（小原さん）」と語ってくれ、充実した時間を過ごせたようです。

《主 な 行 事》 7月

1日(日)	県全商ビジネス文書実務検定 第１回実用英語能力検定（二次）
2日(月)	求人開始
4日(水)	三者面談（3年）（～13日） 壮行会
7日(土)	第１回学校見学会 対外模試（3年） 対外実力考査（1・2年）（～8日）
10日(火)	生徒総会
12日(木)	追試諸注意 メディア安全教育
13日(金)	パソコン利用技術検定（機械科） 初級ＣＡＤ検定（機械科） 日本漢字能力検定
14日(土)	English　Day チャレンジ２１（～16日）
17日(火)	進路講座（3年）
18日(水)	競技大会
19日(木)	終業式
20日(金)	三者面談 （～31日　クラスにより変更あり） 夏季補習（～8月3日） 追試（～21日）
25日(水)	第２回学校見学会（～27日）

第７０回
長崎県高等学校総合体育大会

県高総体が６月１日（金）から開催され、佐世保で行なわれた総合開会式では、サッカー部・バレーボール部・ソフトテニスサークルの選手達がすばらしい入場行進を見せてくれました。翌日からは各競技会場に分かれ、熱戦が繰りひろげられました。

他を圧倒して勝利した部、接戦を制した部、悔しい思いをした部と様々ですが、全体としては入賞も含めとても良い結果でした。もてる力を発揮して例年以上の好成績をおさめ、来年おおいに期待できる部がいくつもあります。大会期間中の熱い応援、本当にありがとうございました。

団体の部

○優　勝

バドミントン部男子
九州大会出場
全国大会出場

卓球部男子
九州大会出場
全国大会出場

空手道部男子
九州大会出場
全国大会出場

○準優勝

ハンドボール部男子
九州大会出場

水泳部男子
ボクシング

○第３位

卓球部女子
柔道部女子
卓球部女子

個人の部

◎九州大会・全国大会出場
○九州大会出場

【バドミントン男子】
ダブルス
優　勝　◎滝口　友士　（龍普３Ａ）
山田　麟　（普３Ｃ）
第２位　◎杉本　一樹　（普２Ｂ）
中島　巧　（普２Ｂ）
第３位　○立石　夢希　（普２Ｂ）
山下　晃誠　（普２Ｂ）
第３位　○町　祥英　（普２Ｂ）
高月　颯人　（龍機２Ａ）
シングルス
優　勝　◎滝口　友士
第２位　◎中島　巧
第３位　○永渕　雄大　（普１Ｂ）
第３位　○中村　恵大　（普１Ｂ）

【卓球部男子】
ダブルス
優　勝　◎北原　龍信　（普３Ｂ）
呂　昕彦　（普３Ｃ）
準優勝　◎田中　流星　（情３Ｂ）
中原　湧斗　（機２Ｂ）
シングルス
準優勝　◎呂　昕彦
第３位　◎北原　龍信
第５位　○田中　流星

【卓球部女子】
シングルス
優　勝　◎黄　佳怡　（普３Ｃ）

【空手道部】
男子個人組手
準優勝　◎中村　龍信　（機３Ｄ）
第３位　○中島　達哉　（普３Ｂ）
女子個人組手
第３位　○橋口　華菜　（情３Ｂ）
第５位　○大楠　平華　（情１Ｂ）

【ボクシング】
フライ級
第２位　若杉　充稀　（機３Ｄ）
バンダム級
第２位　○清水　将暉　（龍機３Ａ）
ライト級
第２位　○川口　彪吾　（機２Ｃ）
ウェルター級
第２位　○脇濱　智輝　（機２Ｃ）

【水泳部】
[男子]
５０ｍ自由形
第１位　○田中　修人　（情２Ａ）
１００ｍ自由形
第１位　○田中　修人
１５００ｍ自由形
第４位　○三田　拓人　（機３Ｄ）
１００ｍバタフライ
第３位　○佐藤　郁也　（機３Ｃ）
第４位　○川口　響　（情３Ａ）
２００ｍバタフライ
第４位　○川口　響
第５位　○佐藤　郁也
４×１００ｍリレー
第２位　○佐藤　郁也・宮野　幸輝（機３Ｂ）
川口　響・田中　修人
４×１００ｍメドレーリレー
第５位　○田中　修人・有森　廉也（普３Ｃ）
川口　響・佐藤　郁也
４×２００ｍリレー
第３位　○佐藤　郁也　・三田　拓人
川口　響・田中　修人
[女子]
２００ｍ自由形
第４位　○古川　未来　（普３Ｂ）
４００ｍ自由形
第１位　○原口　くる実（情２Ｂ）
８００ｍ自由形
第１位　○原口　くる実
１００ｍ平泳ぎ
第５位　○中村　絢香　（情２Ａ）
第６位　○里　憂奈　（情３Ａ）
２００平泳ぎ
第４位　○中村　絢香
２００ｍ背泳ぎ
第５位　○小川　優美　（普２Ｂ）
４×１００ｍリレー
第５位　○中村　絢香・原口　くる実
小川　優美・古川　未来
４×１００ｍメドレーリレー
第５位　○小川　優美・中村　絢香
原口　くる実・古川　未来
４×２００ｍリレー
第５位　○原口　くる実・小川　優美
古川　未来　・中村　絢香

【陸上部】
[男子]
１５００ｍ
第１位　○林田　洋翔　（情２Ａ）
第５位　○長島　玲音　（龍機２Ａ）
５０００ｍ
第４位　○長島　玲音

[女子]
８００ｍ
第３位　○石本　真歩　（普２Ｂ）
１５００ｍ
第５位　○石本　真歩